

山王廃寺跡(前橋市)



金堂と塔(赤字)は確認されたもの



石製鴟尾、塔の中心礎石、塔心柱根巻石が残っている

この日枝神社が山王廃寺の比定地とされる





正面の上屋が山王塔跡で塔の中心礎石が置いてある







山王塔の建立時期は7世紀末の白鳳期の頃という

史跡 山王塔跡

大正一〇年塔心礎が発見され、
 ここが古い時期の寺院跡であるこ
 とがわかり、地名にちなんで「山
 王廢寺跡」と名づけられた。塔の
 心礎は一辺一四mの方形基壇の中
 央を掘り凹めた中に置かれ、東西
 三m、南北二・五m、厚さ一・五
 mという巨石を加工したものであ
 る。心礎のほぼ中央には、径六五
 cm、深さ一八cmの孔一柱受けか
 と、さらにその中央に径二七cm、
 深さ三〇cmの舍利孔との二段の孔
 がうがたれていている。孔の周囲には
 径一〇八cmの環状の溝があり、そ
 こから放射状の溝が東西南北の方
 向をさして刻まれている。塔の心
 柱の太さは環状の溝内縁に合致す
 るものであるうか。寺院建立時期
 は、出土瓦などから七世紀末の白
 鳳期の頃と考えられる。

この上屋に石製鴟尾、塔心柱根巻石が置いてある



上屋正面の説明板

国認定旧重要美術品 石製 鷓鴣尾

所在地 前橋市総社町総社2408 日枝神社

鷓鴣尾は、中国伝来の架空の動物で、火にあうと水を吹き雨を降らすとの伝説から、防火上のまじないとして、屋根の大棟の両端につけられるようになりました。鯨尾は、中世以降鷓鴣尾から変化したものです。



国指定重要文化財 上野国山王麿寺塔心柱根巻石一具

指定年月日 昭和28年11月14日

所在地 前橋市総社町総社2408 日枝神社

根巻石は、唐風建築の基部に巻きつけ装飾としたもので、我国では大変めずらしいものです。

この根巻石は現在地から約100m東の地点で井戸枠に使用されてい



有名な奈良県の唐招提寺金堂のものは陶製で、石製のは少く、山王麿寺のものと、鳥取

県伯耆大寺麿寺のものしかありません。

この鷓鴣尾は角閃石安山岩製で高さ1m、重さ1屯もあり、この鷓鴣尾を大棟の両端に据えた、山王麿寺の建物の壮大さが想像されます。

たもので、出土位置は不明です。根巻石 7葉の蓮弁は輝石安山岩製で、

径96.5cmの穴を有します。石材の加工技術は当時(7世紀後半)では高度なもので、宝塔山古墳、蛇穴山古墳の石室の加工技術との関連性が考えられています

石製鴟尾



塔心柱根卷石(重要文化財)



礎石等に使われたものなのか？



塔の中心礎石



<http://blogs.yahoo.co.jp/kanezane2/15986475.html>

<http://blog.goo.ne.jp/nara05m037/e/ee4e5d8547d198b3d229a8990480afa9>





総社古墳群と山王廃寺 地図

CLOSE X

インターネットより